

## 【宣言】

私たち太平洋セメントグループは、  
安全・安心な社会基盤の構築を、資源循環型社会の実現を、  
地域社会の活性化を支えていくことで、地球の未来を切り拓きます。

### 【重点領域】

#### 柱1

#### 安全・安心な社会基盤の構築

伝統に培われたセメント・コンクリート技術を駆使して、お客様の期待を先取りした製品・サービスを提供することで、安全・安心な社会基盤の構築と維持に取り組みます。

#### 柱2

#### 資源循環型社会の実現

環境負荷低減につながる先進的な技術の開発に努め、社会の課題を解決する製品・サービスを提供することで、資源循環型社会の実現に貢献します。

#### 柱3

#### 地域社会の活性化

積極的な対話とコミュニケーションを実施し、事業を展開する地域の一員として、地域社会の活性化に努めます。

#### 土台 多様性を尊重した活気ある職場づくり

多様性を尊重した活気のある職場をつくり、太平洋セメントグループで働く仲間の一人ひとりが、誇りを持って誠実に仕事に取り組んでいきます。

### ●CSRについての基本的な考え方

**Q.** 鮫島社長は常々、「企業は人々を幸せにするために生まれてきた」とおっしゃっておられます。ここでの「人々」とは、お客様、株主、従業員、サプライヤー、地域社会などの多様なステークホルダーを総称しておられるのだと思います。会社経営とは、それぞれのステークホルダーとのバランスをぎりぎりのところで取っていくことであろうと思われそうですが、「各ステークホルダーとのバランス」という観点で、経営にあたっての所信をお聞かせください。

**A.** 私は、企業が存在するところの最終的な目的は、社会のすべての人々を幸せにすることだと考えます。

企業は世の中の害になることや迷惑をかけることをしてはならない、ということは当然ですが、その上で、何を幸せとするかの基準がそれぞれ異なる多様なステークホルダーとどのような関係を持つべきかを良く考え、それぞれに幸せを感じていただけるように努力する、というのが企業のあるべき姿だと

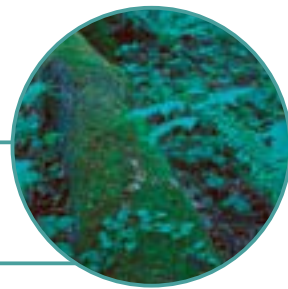
思います。

各ステークホルダーとの関係については、ステークホルダーごとに、長期的に考えなければならない課題や短期的に対処しなければいけない課題など様々であり、ステークホルダーに応じた時間軸で関係を構築していく必要があります。

法律論では、企業というものを法人と自然人という概念で



## CSRマネジメント



2007年8月、経営理念をCSRの観点から具体化し、10年後のあるべき姿を描いた「CSR長期ビジョン」を策定しました。

### CSR要綱

当社では2004年4月にCSR推進部を設置し、2005年4月にCSR経営を推進する上でのよりどころとして「CSR要綱」を制定しました。要綱では、当社がCSR経

営を進める目的と基本方針とともに当面の重点課題と推進体制を定めています。

### CSR経営 当面の重点課題

- コンプライアンスの徹底
- リスクマネジメントの強化
- 地球環境保全活動の推進、環境経営の促進
- 品質保証体制の再構築、顧客満足度向上
- コミュニケーションの促進 (WBCSDセメント産業部会活動ほか)

### CSR経営の推進体制

CSR経営を推進する体制として、2005年4月に取締役会直属で部門横断的に構成されるCSR経営委員会を設置しました。CSR経営委員会は、社長を委員長として全取締役がメンバーとなり、全社CSR実施計画等の重要事項の審議と実施状況のレビューを役割としています。

CSR経営委員会の傘下には10の専門委員会があります。各専門委員会は担当役員が委員長を務め、最も関連の強い部署が事務局となっています。各委員会ともテーマごとの方針を実現するための委員会ミッションを明確にした上で、年間活動計画を策定して活動を推進しています。(P.12-13参照)

### CSR長期ビジョン

当社のCSR経営は経営理念を具現化することですが、現状では経営理念が従業員一人ひとりに浸透しているとはいえません。そこで、CSR経営委員会および傘下の専門委員会の事務局メンバーが集まり、経営理念をCSRの観点から具体化し10年後のあるべき姿を描こうと検討しました。国際的な各種CSRガイドラインに照らして当社のCSRの現状課題を棚卸しする一方、当社グループの事業における強み・弱み・機会・脅威をCSRの観点で分析しました。それらを踏まえて、当社グループらしさを表すキーワードを抽出しました。出来上がった素案を2007年2月に従業員に提示したところ、400件を超える意見・要望が寄せられ、これらを反映して「CSR長期ビジョン」をまとめ

ました。

当社グループを一軒の家に見立てると、「宣言」という看板と、「重点領域」として家を支える土台と3つの柱からなります。(P.5参照)

